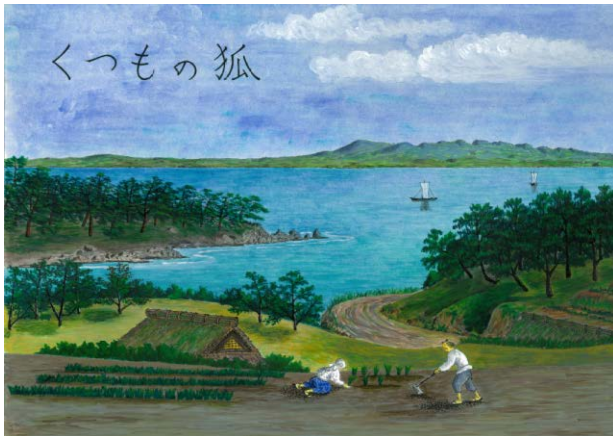


くつもの狐



制作

コミュニティ・サロン「ほっこり」（金沢区東朝比奈2-2-32）

あらすじ

現くつも（現在の富岡総合公園付近の旧地名）の農夫、彦蔵じいさんは、ある日峰の灸に出かけますが、帰る途中で日が暮れ、路に迷ってしまいます。

大きな屋敷を見つけ助けを乞うと、現れたのは鄙には稀なる美しい女性でした。

翌朝じいさんが畑の中で、もがくようなしぐさをしているのが発見されます。じいさんは狐にばかされてしまったようです。

雪の降る晩、山いぬに追われて逃げてきた女狐をじいさん夫婦が助けてやります。

そしてある夏の日、女狐は美しい女性に化け、老夫婦のところに土産をもってお礼にやって来ます。

作者紹介

文・絵：藤井俊男（ほっこりスタッフの夫）

イラスト・ストーリーとも、作者は元中学・高校の理科教師をしていた60代の男性です。

妻が「ほっこり」の調理スタッフとして活動している中で紙芝居の話しが舞い込み、興味があったので取り組むことにしました。

（この話の舞台になった地域は、私が少年だった頃には山林と畑が広がる田園地域でした。おそらく江戸時代の末期と、さほど変らぬ風景が至る所に残っていたのだと思われます。時々、昔のことを懐かしみながら、この地域をぶらついていきます。）

工夫したポイント

この紙芝居のもとになったのは富岡地区の昔話ですが、彦蔵じいさんが峰の灸へ行き、帰る途中で狐にばかされたという、どこにでもありそうなものです。

紙芝居に仕立てるには短すぎるので、役人や庄屋（本来ならば名主とすべきかも知れませんが）、そして美しい女性を登場させ、話をふくらませました。

もとの昔話とは、かなり趣が違ったものになってしまったようです。

また、絵については、なるべく季節の変化を感じさせるように心がけて描きました。